

「リエゾン精神看護専門看護師の紹介」

リエゾン看護師
宇佐美 友紀子

リエゾン精神専門看護師として院内を横断的に活動しております。

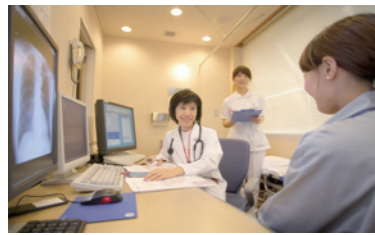
リエゾン (liaison) とは、フランス語で「繋ぐ」という意味を持ちます。身体と心、医療従事者同士、また、医療者と患者様・ご家族を繋ぐといった役割も担っています。入院/外来を問わず、各部署の医療者から相談を受け、直接お会いして介入しています。例えば、患者様・ご家族が、急で突然な出来事に対する気持ちの整理や、治療に対する不安に対して向き合えるよう精神的ケアを行っています。患者様自身が選択できるように関係職種と連携しながら支援を行っています。また、職員のメンタルヘルス支援も役割の一つです。現在、コロナ禍の影響で医療体勢が大きく変化しています。そのため、精神科専門分野の精神科医師・公認心理士と協力しながら、職員へのセルフケア支援や、個々の面談を行っています。日々、多忙な職員のストレスを少しでも緩和できるよう関わっています。

健診センターからのお知らせ

「土曜日」開設の人間ドックご案内

●平日は忙しくて!という方向け

平日は忙しくて健診を受けられない方(65歳以下)を対象に、土曜日の人間ドックを開設いたしました。



「平日」開設の認知症ドックご案内

●頭を健康を意識する方向け

体の健康だけでなく、頭の健康を意識する方向けに、認知症に重点をおいた認知症ドックを平日に開設いたしました。



—申し込み方法—

電話予約または直接健診センターへの来院予約

月曜日～土曜日 午前9時～午後4時
(但し年末年始12/29～1/3及び5/1は除く)

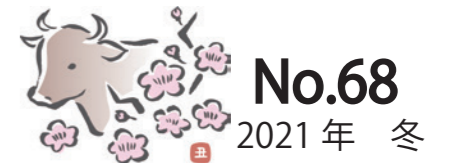
電話番号 0422-30-5638 (直通)
または 0422-32-3111 (代)



健康管理の一環として、武蔵野赤十字病院健診センターをご利用ください。お待ちしております。
★詳しくは病院ホームページ「人間ドックのご案内」でご紹介しています。



武蔵野赤十字病院



〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
季刊 情報誌

頼れる病院をめざします

Eye むさしの



基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります

謹賀新年



新たな年を迎えて



病院長 泉 並木

2020年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった年でしたが、残念ながら1年では終息せず今年にはさらに拡大するきざしを見せています。

武蔵野赤十字病院は感染症指定医療機関ですので、300名以上の患者さんの入院診療を担当してきました。

しかし、これだけ患者さんの診療をしても、職員の感染を徹底して防止しています。

通院中の患者さんにおかれましては、病院内で感染することはありませんので、どうかご安心ください。

武蔵野赤十字病院は2020年4月より東京で5カ所しかないがん診療連携拠点病院（高度型）に指定されました。

ゲノム医療やロボット手術などを発展させていきたいと思っております。また、無痛分娩を2020年8月から開始し、順調に患者さんが増えています。循環器や脳神経疾患、整形外科など体に負担が少ない治療を進めていきたいと思っております。

職員皆が協力しあって地域医療に貢献することに取り組んでくれています。

初期研修医のマッチングでは1位希望者が全国で1位の数になり、医学部学生が最も研修したい病院だという評価が得られたと思っております。

皆さまに信頼していただける病院を目指していきたいと思っております。



副院長・看護部長
若林 稲美

新年明けましておめでとうございます。

昨年は1年を通して、新型コロナウイルスの対応に追われる1年でした。

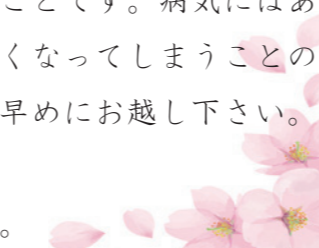
年が明けた今も第3波に見舞われ、対応が続いています。長期戦となり、生活も多くの変化を強いられています。ここは踏ん張りどころと肝に銘じ、地域の皆様とともに頑張らなくては、と思っております。

昨年中は本当に多くの方に励ましの言葉や支援の物資を頂きました。一時期はマスクやガウンが不足し、危機感を持っていましたが、今は物資に困ることはほとんどなくなりました。ありがとうございました。

当院の職員に新型コロナウイルスの感染者が発生した場合には、その都度ホームページでご報告させていただきました。多くの陽性者の治療を行っているにも拘らず、極めて少ない感染者しかいないことは、当院の感染管理体制と職員個々の意識、知識、技術の賜物と、大声で自慢したい思いです。

今心配をしていることは、新型コロナウイルスのために、受診控えをする方のことです。病気にはあまり時間的猶予のないものが多くあります。受診控えをされることで、具合が悪くなってしまうことのないよう、気になる健康問題がありましたら、かかりつけの先生にご相談の上、早めにお越し下さい。感染対策には最大限の努力をしておりますので、安心して受診してください。

この状況が1日でも早く収束することを祈りつつ、本年もよろしくお祈りいたします。



IMPELLA 導入 ～新しい補助循環装置～

2020年11月補助循環用ポンプカテーテルインペラを導入致しました。

従来、当院において重症心疾患患者に対する補助循環装置はPCPSやIABPを使用してきましたが、症例によってはサポートが不十分なこともありました。インペラはこれを補うことが期待されます。

本デバイスは大腿動脈もしくは鎖骨下動脈からアクセスし、左室内にポンプカテーテルを留置、ポンプ内の羽根車が回転して左室内から血液を脱血、上行大動脈へ送血します。

最大補助流量2.5～5.0L/minの順行性血流が得られ、その結果、平均動脈圧の上昇、心負荷の軽減が得られることとなります。

適応は心原性ショック、重症の心不全や虚血性心疾患などの症例であり、そのほかハイリスク症例に対するカテーテル治療や心臓血管外科手術で使用することを想定しています。



当院は東京都の北多摩南部医療圏に属し、心不全、急性心筋梗塞症などの循環器緊急疾患の搬送が多く、また三次救急体制も充実しているため症例数が非常に多いので、これからインペラの使用頻度が増えると予想しています。

インペラの運用には多職種が関わるため、多くの方の協力のもと医師、臨床工学技士、看護師、放射線技師などでワーキンググループを立ち上げました。オンラインでの十分な学習と2日間にわたる院内トレーニングを行い、さらにカテ室や手術室では実際の運用手順を確認しました。さらに各部署では運用に支障が出ないよう独自に勉強会を開催し、体制の強化を行いました。

インペラの導入には、補助人工心臓（VAD）植え込み施設との連携が必要であるため、東京医科歯科大学心臓血管外科・循環器内科を介して連携を図りました。

今後は院内、院外を問わず、チーム医療を充実させ、地域の重症心疾患患者の更なる救命を目指します。

循環器科 部長 野里 寿史